



# 思い出の犬



虫一郎

## 犬の思い出 犬に噛まれた時のこと

---

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

JUGEMテーマ：[ポメラニアン](#)

JUGEMテーマ：[心理学](#)

私、小さい頃は犬は嫌いだったのです。怖くて。

まだ、子供の頃は野良犬がいたし、放し飼いも多いし。（放し飼って死語！？）

それでも、何頭か仲良しになれた犬がいて...ということは嫌いではなかったのかもしれませんがね。ただ、怖い、という気持ちはありました。

その葛藤が、犬に受け入れてもらう方法を確立させたのではないかと。

放し飼いの犬を知っている、私の世代の人はそうなんじゃないかな～。

犬を驚かせないように、下から手を出すとか、そういう「技」を覚えて、きっと使いたかったのでしょうね。

小学校の高学年の頃...だったと思います。

学校の帰り道、庭ともいえない、空き地に繋がれたワンコ発見。

辺りに人影はなく、私とワンコだけ。

大きかったですね。オスワリして、頭が私のお腹のあたりだったと思います。

でも、その頃は、どこの犬も雑種ばかりだし、小型犬は座敷犬で、外では見かけなかったし、大きな犬は珍しくなかったのです。

私はむしろ、ギャング足下で吠える座敷犬のが怖くて、大きな犬の方が信頼できました。

顔は鼻先が黒くてオヤジ顔だったと思います。

シェパード系な感じ。

とても静かに座っていて、私もつい、挑戦したくなかったです。

で「ちょっといいですか～」っていう感じで、近づきました。

特に吠えるでもなく、私の接近を受け入れてくれたように感じました。

それで、手をあごの下に出すと、鼻先を近づけてくれた。ので、触ろうとしたんです。

そうしたら...あああ～噛まれました！

パクッと私の手がすっぽりと、噛まれてます！！

...ん？しかし？それが、全く力が入っていないのです。

ただパクッと、くわえている感じ。

その瞬間に、子供の私は大人（の犬）に諭されている気がしました。

「すみません！私が狎れ狎れしくずうずうしかったです！」って思いました。  
実際私はワンコに向かって「すみません...」と言いながら退却したはずですが^^ ;  
次の瞬間に吠えながら襲いかかって来るかも！とも思いました。怖かったですね。  
でも、彼はそんなそぶりは微塵も見せず、ただ、最初からそうだったように、そこに座ったまま、私を見送りました。

私が、明らかに侵入してはイケナイ彼の敷地へズカズカと上がり込んだ...というのを知らされた気がしました。しかも、かなりぎりぎりまで、彼はその侵入を我慢して、最終的に紳士的に諭してくれた...と私は思いました。

犬を信頼、尊敬できる、と思わせてくれたのが、このワンコだったと思います。

哲学ブログ

にほんブログ村

心理学

にほんブログ村

犬ブログ

にほんブログ村

ポメラニアン

にほんブログ村

## 思い出の犬 リロとジョン

---

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

今から20年くらい前でしょうか、叔母の家に犬がいました。

リロとジョンです。

叔母の家は山の中であって、本当に山の中で、イノシシの通り道を切り崩して建てたのだ、だから、夜はまだイノシシが通る、なんて叔父は言ってました。

その頃は、一番近くの家でも、山道を歩いて数十分かかるような、本当に山の中でした。

叔母が言うには、ある日、山の中から、2頭の犬は現れたのだそうです。

実は、叔母は生き物が嫌いなのです。

猫が膝の上に上がって来ると、あの生暖かい感じが気持ちわるい、という人でした。

だから、犬を飼う気なんか無かったようなのですが、犬が居着いてしまったようです。

叔父や子供たちは気に入ったのでしょう。

2匹ともやや大型です。

リロはクリーム色で短毛、ジョンはごま塩のような感じでリロよりは長い毛。

ジョンは人懐っこい犬ですが、リロは誇り高い孤高の犬でした。

私が、リロ達が来てから初めて叔母の家へ行った時、リロは侵入者に向かって吠えました。

ただし、攻撃的ではありましたが、攻撃すべきか否か、家人の判定を待って吠えていました。

いやあ～怖かったですね。2頭とも放し飼いですから。

その状態で攻撃をあらわにしていました。

でも、家の中から、皆が出て来て、私を迎え入れると、リロは私を客人として認めました。

最初は不服そうでしたが、すぐに私が触れることを許してくれました。

ジョンは、リロさえ怒らなければ、新しい人間と遊びたくて仕方ない！という感じでした。

数日の滞在中、私はジョンには申し訳ないけれど、愛想の良い可愛いジョンよりも、リロがすっかり気に入ってしまいました。リロは触らせてはくれても、愛想は全くありません。

私のことも大分信頼はしてくれているようですが、所詮、客人という感じです。

ごはんを持っていくと、がつつくこともなく、私が器を洗って、鍋の残飯（この家の犬飯は正しい残飯でした）を移し替えるのを静かに見守ります。はいどうぞ、というまでちゃんと待ってくれました。

子供たちと、山の中を散策すると、犬たちは必ず着いてきました。

放し飼いの彼らは散歩は十分に足りていましたから、子供たちの保護の為に彼らの意思で着いて来ました。

でも、たまに訪れるご近所さんには評判が悪かったです。

リロは正しい番犬だったので^^；

で、ある日、私が戸締まりをして最後に家を出る時、叔母が留守中に近所の人が届け物をしにくるから、犬を繋いでおいてくれ、と私に言うのです。

今思えば不思議なくらいですが、ジョンはおろか、リロも素直に私によって繋がれました。

リロとジョンは自分の意思で自分の家族を選び、信頼する家族の客人だから、顔なじみのご近所さんよりも、私のことを信頼してくれました。

次に訪れた時は、当然リロは私のことを覚えていて、尻尾を振って歓待してくれました。

もし、リロが繋がれた犬だったら、リロのこの利発さに気付くことができたでしょうか。

今の日本で、多少のオフリードに目をつぶることは出来ても、完全な放し飼いは無理です。この時の叔母家だって、かなりきわどい気がしますが^^；

でも、犬って、こうして犬の自由意志を尊重して一緒に暮らした方がずっと魅力的。こういう暮らし方の出来ない社会って...人間にもストレスあるんじゃないかな～～～

[哲学ブログ](#)

にほんブログ村

[心理学](#)

にほんブログ村

[犬ブログ](#)

にほんブログ村

[ポメラニアン](#)

にほんブログ村

## 思い出の犬 タビスケ

---

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

JUGEMテーマ：[柴犬](#)

お隣で飼われることになった柴犬・タビスケ

旅助なのか、旅介、旅丞...なんじゃないかな~と思うのですが、音は「たびすけ」。

お隣に来た時、7歳くらいであったろうと思います。

今思えば、ブリーダーさんのところから来た犬でした。

種牡としての仕事が終わったので、どういう経緯かは知りませんが、引退してやって来たようです。

涼しい顔立ちの小柄なハンサムでした。

お隣では、誰もが変な名前と思ったようですが、住む所も変わってしまったのに、名前まで変えてしまうのは可哀想、ということで「タビ」と呼ばれるようになりました。

良い番犬でした。

もう、30年くらい前なんですね。

タビは、私たちや近所の人はずぐに覚えて、番犬の仕事に勤しみました。

ウチには犬はいませんでした。タビがいることで、ご近所皆が番犬を持っているような感じだったのではないのでしょうか。

最近、庭先で犬を飼う家をほとんど見なくなりましたが。。。

タビは夏は蚊取り線香を点けてもらっていました。

30年前には、こんなのは贅沢で「タビは幸せだねえ~」なんて言われてましたけど。

近所の人は一たび訪問すれば覚えて、必要以上に吠えませんが、新聞屋さんと郵便屋さんは何度来ても、帰るまでは絶対に吠え止みませんでした。

ある日、新聞屋さんがやってくるのを私は近くで見っていました。

新聞屋さんのお兄さんは、足下で吠えまくるタビに一瞥もくれず、ズカズカと郵便ポストまで向かいました。タビは吠えつつも、どんどん後退しています。

どうも、これが毎日のことのようにです。

私は驚きました。犬というのは吠えたからといって全部が噛み付く訳じゃないんだな〜と。むしろ、新聞屋さんの堂々としたこの態度にビビりながら後退しているじゃないか！と。犬を信頼することと、堂々としていることに大事さはこの時知ったのかもしれませんが。

タビとはよく遊びました。

記憶によれば7歳くらいのハズなのですが、それにしても、タビはとてもよく遊んだように思います。

甘噛みのようなこともしたように思います。

あまりにじゃれて私の腕に爪が当たったことがありました。

腕につーっとミミズ腫れが出来ました。

結構深い傷だったのか、その跡はまだうっすらと残っています。

タビはとっくの昔に天寿を全うしてしまいましたが、腕に残る跡がタビがいた確かな印のような気がして愛おしいです。

哲学ブログ

にほんブログ村

心理学

にほんブログ村

犬ブログ

にほんブログ村

ポメラニアン

にほんブログ村

JUGEMテーマ：[心理学](#)

JUGEMテーマ：[ダメ犬しつけ](#)

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

中学の時、友人の家で飼っていたワンコ。  
農家の広い庭先で放し飼いで、出会いました。  
友人が「メリーさんだよ」と言いました。

なんだか、自分の家の飼い犬に「さん付け」なんて、その頃は絶対あり得ないことなので、ちょっとおかしかったです。

でも私も「メリーさん、はじめまして」と。

「さん」をつけて会話を始めると、なんか、丁寧になりますね。  
メリーさんは大人しくて愛想が良くて、すぐ好きになっちゃいました。

でも、だんだん、私の知らなかった事実が...^^；

私がメリーさんを撫でているとなりで友人が話します。

...メリーさんはね、迷子でウチに来たのよ。だからね、きっと血統書があるはずの犬なんだけど、ないから、雑種ってことになってるの。

本当なら耳とか切るんだよ～ドーベルマンだから^^

「へえ～そうなんだ～」...って！？えええ～？？この犬ってドーベルマンなのおおお？？？

当時、獰猛な犬の代表がドーベルマンとブルドッグでしたね。

マンガで、悪い人が正義の主人公を追い払うために放つ犬はドーベルマン。

いじめっ子が、大人しい主人公をいじめるために放つのがブルドッグでしたね。

メリーさんの耳が三角に立っていたら、私も気付いたかもしれない。

その頃は、多分断耳なんて知らなかったと思うのですが、

垂れた耳のドーベルマンは、スマートで足の長いダックスフントみたいで可愛かったのです。

とても、獰猛な犬・ドーベルマンとは思えませんでした。

その後、大人になってから、ドーベルマンを泣く泣く手放したという人の話を聞きました。

「洋犬は、和犬よりも人なつこいのよ。ドーベルマンって、怖そうに思われるけれど、本当は人



によくなつく可愛い子なの。でもね、それで寂しがって、吠えるんだよね。それで軽井沢に知合いがいてね...」というお話でした。

都会の真ん中の小さな庭の中で泣き続けるドーベルマンに、この方を心を痛め、軽井沢で暮らす方に飼っていただくことにしたそうです。

とにかく、そういうワケで、私の中の「マンガで培われた既成概念」は完全に崩れました。

その後、お散歩で出会うドーベルマンも皆懐っこくて^^

「訓練の入ったお行儀が良い大型犬」というよりも、甘ったれの懐こい子達でした。

哲学ブログ

にほんブログ村

心理学

にほんブログ村

犬ブログ

にほんブログ村

ポメラニアン

にほんブログ村

## 思い出の犬 ロン

---

ロン、私にとって一番最初に触れた犬です。  
ご近所のワンコで、時々仔犬もいたので、メスですね。  
多分、私が3歳とか4歳の頃のことだと思うのです。  
幼稚園時代には既にいたし...

40年以上前ですね^^ ;

放し飼いの犬、野犬、野犬狩り...があったころ。  
スピッツのブームは去って、  
当時は「スピッツはバカだ」と言われていました。  
写真や置物は我家にもあって、私にとっては憧れの犬でしたが、  
実は実物は近年人気が復権するまで見た事がなかったですね。  
先代犬を探す時、私はスピッツを提案しましたが、  
ダンナには案の定「スピッツはバカだから」と却下されポメを探したのです。

当時は、スピッツや純血種はバカだ。  
その点、雑種の方が賢いぞ！なんても言われていました。

ロンは、雑種...というか、  
あの頃はまだ柴犬を血統書付きで譲渡するなんてこともなかったんじゃないかしら？

犬って、どこかの家でなんとなく生まれちゃって、  
そういう家からもらってくるものだったし。。。

ほとんど柴だと思いますが、雑種という方が正しいのかな。

既に犬が怖かった私ですが、その場にいた近所のオバサンの  
「ロンは大丈夫だよ」という言葉で、  
ロンに触って、ロンは大丈夫だ！と確信しました。  
多分、3～4歳ですが、この時の記憶はハッキリとあります。  
ロンからは全く警戒する様子がなく、私が恐れる必要が全くありませんでした。  
「大丈夫な犬もいる」というのが、私の犬の第一歩でした。

でもね、私は今でも、このロンの飼い主さんに今でも怒っているのかもしれない。

何かと、自分ちがご近所よりちょっとお金持ち...みたいな、  
車があるとか、駐車場を余分に借りているとか、犬がいるとか...  
なんか、子供心にも、というか、子供だからこそ、  
「このタヌキオヤジは鼻持ちならない」という印象を、周囲の子供は皆持っていました。

この家では「散歩」はしませんでした。  
ロンは朝晩鎖を放されて、勝手に散歩に行きました。  
もちろん、ちゃんと戻って来ます。  
でも、時々戻れないことがありました。  
野犬狩りに捕まってしまうのです。  
ロンは大人しいから、人間に全く抵抗しないんだと思います。  
でも、そういう時はタヌキオヤジの家に連絡が入って迎えに行く、  
ということを数回繰り返しました。

そして、私が小学校に入った頃、母が  
「ロンがまた捕まってしまったけれど、もう歳だから、  
タヌキオヤジ（仮名）の家では、安楽死させてくれるらしいから、  
もう迎えにいかないんだってよ」と話してくれました。

安楽死が、麻酔かなにかの注射で眠るように死ぬこと、というのは知っていました。  
野生のエルザとか、わんぱくフリッパーとかでやってたのかしら？

最近、ごく最近まで安楽死だと信じていました。

ロンは本当に帰って来ませんでした。

そして、1ヶ月くらいでしょうか、そんなに時間は空いてなかったと思います。  
ロンのいた犬小屋に仔犬が来ました。  
名前はまた「ロン」です。  
前のロンは短毛の細身の柴という感じでしたが、  
今度のロンは、黒と茶の長い毛が混じった、大きめのポメラニアンみたいな犬でした。

これも放し飼いでした。

学校から帰る私を待ち伏せして、ワンワンいって追いかけてくれたのはこの犬です。

私は本当に怖くて、家に入れないこともあり、怖い怖いと言っていたと思います。  
鍵っ子だったので、自分で鍵を開けないと家に入れないので、

無事に玄関に辿り着いても、鍵を開けている間に犬に見つかると、もう家には入れません。  
追いかけて、泣きながら家の周囲を回って逃げました。  
そうして、なかなか家に入れない日もありました。

犬小屋がロンのいた表側から、家の裏の方へ移されました。

記憶が途切れます。

大人になったこの仔犬の記憶がありません。

私を見上げて吠えるこの仔犬の顔が記憶の中にあります。  
それが笑っているんですね。  
今の私だったら喜んで遊んであげるのにな。。。

ロンは大人しくて優しかった。  
でも、ロンの最期は誰にも迎えにきてもらえなかったのだ。

JUGEMテーマ：[ポメラニアン](#)

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

JUGEMテーマ：[ダメ犬しつけ](#)

JUGEMテーマ：[柴犬](#)



にほんブログ村



にほんブログ村



にほんブログ村



にほんブログ村

## 思い出の犬 コリー犬...名前は.....

---



コリー犬なんです。シェルティじゃなくて、コリー犬。  
...シェルティなんて、まだいなかった。。。

コリー犬の姿は知っていました。

名犬ラッシー。

名犬ラッシー自体を見たことがあるわけじゃないけど、  
とても長い距離を飼い主さんを探して一人で歩いて帰って来た犬の、  
実話をもとにした物語がある、ということは知っていました。

当時、憧れの美しい、優秀な犬の代表でした。

純血種ってヤツも珍しかったし。

そんなコリー犬がある日、学校から帰ると、ご近所に繋がれていたのです。

車二台分くらい向こうに繋がれていました。

...そして狂ったように吠えまくっていました。

ひょえ~~~~~!!! 怖い~~~~~

まだ、基本的には犬が怖い私です。

個体ごとに信頼関係を築いて...という積み重ねの最中。

いえ、個体毎に信頼関係を築くというのは、今ももちろんそうなのですが、

今は、私はウェルカムだけど、キミはどお？

というスタンスなのに対して、

この頃は...

アナタ様がよろしければ、私も少し距離を詰めさせていただきたいのですが...

いえ、触るなんてそんなことは...ちょっとお隣に座らせていただければ...

.....え？いい？そう？触ってもよろしいですか？

では、ちょっと.....

あ、え？私ビビり過ぎですか^^；失礼いたしました。

これではまるでアナタをとて乱暴な犬だと思っていたような態度でしたね、失礼いたしました。どうぞ、これからもよろしくお願い致します。

...みたいなの。

そんなことの積み重ねでした。

なんというか、私が子供だったせいか、犬の方がずっと年長者でした。

あ、脱線しますが、犬によって「精神年齢の成熟度」って違う気がします。

ポメとかは、ホント子供ですね。

おばあさん犬になっても子供。

その点は、大型犬とか、和犬の方がずっと大人な気がします。

幼態成熟（ネオテニー）の特徴として、

頭蓋骨が丸くなる...というのがあるそうです。

う〜む、ポメは丸い。チワワも丸い。

ブリーディングの時に、丸い方がかわいい...とかいうことで丸くしたのでしょいかね。

アップルヘッドって言うんですか？

外見を追求してこうなっていったのかもしれませんが、

それが脳の発達にも関与しているのかもしれない。。

小型犬は頭蓋骨の丸いタイプが多い気がします。

でも、ダックスは...丸くないのかな？

鼻が長いだけかな？

ダックスは、ポメなんかと比べると独立心があるような気がしますね。

その分、お人形のような犬を求める人には扱いにくいんじゃないかな。。

大型犬とか、和犬って、そりゃあオオカミに比べたら丸いでしょうが、

シェパードとか...犬の原種に近いと言われているタイプって、

頭蓋骨が長いと思うんですよ。

あ、これ、全く私の考えですよ。科学的根拠とかないですよ。

その違いが、大人っぽいな、とか、子供っぽいな、という性格に出るのかな...と思ったり。

我が子の精神年齢が概ね分かったら、

乗り越えられる、乗り越えさせる、乗り越えたい (...なんだろう?)

そんな無理のないハードルが、具体的に見えてくるような気がします。

つまり、当時私が出会った犬は皆大型犬だったためなのか、  
私の子供だったからなのか、  
とにかく私は、仔犬以外は彼らを年長者とっていました。

だから、あんなに狂ったように吠えまくる犬は見た事はありませんでした。  
そりゃあ、侵入者に対して吠える番犬は一杯いました。  
でも、そんなレベルではないのです。  
悲痛な悲しみに満ちていました。

どこかから、もらわれて来たらしいのです。  
何才かは分かりませんが、とにかく成犬です。

通りに面したところに繋がれ、遮るものは何もありません。  
朝はいませんでした。  
学校へ行って、帰って来たらしいのです。  
辺りに人影はありませぬ。  
ココを通らないと家に入れませぬ。

車二台分くらい向こう。  
暴れているけど、とりあえず、綱？鎖？は、  
切れたり外れたり、今のところしそうにない。  
コチラの端っこをそおお〜と通るしかない。  
何度も、その辺りをウロウロしたあげく、一大決心をして通りました。

さて、あの犬とどうやって仲良くなったのか、  
...覚えていません。

ただ、私のセオリーとして、  
飼い主さんから正式にご紹介していただくまで勝手に近づかない、  
というのがありました。

以前に、ズカズカと近づいて

「そういうのはダメだよ」と嗜められたことがありましたから。

<http://bard.jugem.jp/?eid=416>

↑この犬とは、この時だけで、あとは前を通ってもチラッと見るだけの  
「清い関係」でした ^^

でも、私の中ではリ口の次に好きな犬かもしれない。。。

<http://bard.jugem.jp/?eid=424>

飼い主さんのいる時に紹介してもらった...のだろうと思うのですが、  
なんとなく、そんな記憶もあるのですが、  
掴もうとするとフッと消えてしまうような曖昧な記憶です。

私の記憶に確実にあるのは、  
私が毎日、給食のパンを一枚残してあげていたこと。

いえ、今だったら勝手に上げちゃダメだよ...と言うのが私なんですけど...

これも、最初はたまたま残したパンを持っていたのだと思います。

...今も、給食のパンって残すともって帰るのかな？  
給食袋に入れて...なんか、衛生的に云々って言われそうだな。。。  
お友だちの家には持ち帰ったパンが山ほどあって、  
時々、蒸かしたり揚げて砂糖をかけたのとかが、  
オヤツに出て来たな。。。乾燥させていたのかな？  
黴びたりしてなかったし^^；  
昔はちょっとでも食べられるものは捨てなかったな。。。

初対面の時は、あんなに狂ったように吠えて、  
怖かったコでしたが、  
気付いたら、このお家の玄関先に大人しく繋がっていました。  
いつも、陽の射さない玄関先でじっと大人しくしていました。。。

学校帰りにちょっと撫でる。  
そんな毎日だったと思います。  
そんな中で「あ、パンがあるよ」みたいな感じだったのかな。  
オテとかオスワリとかもしました。  
...だから、きっと飼い主さんを挟んでいますね。  
飼い主さんが「オテが出来るよ」って言ったのだと思う。

パンをあげるときは、「オスワリ」「オテ」ってやってました。  
彼は（彼？かな？）真面目に応えてくれました。

一枚まるっと差し出すのです。



すると、長い口で、半分をパクっと切るんです。  
犬の歯はハサミ...というのは、この時知ったのかもしれない。  
パンをちょうど半分にちょきちょきと切る感じ。  
そして、半分を食べて、落とした残り半分を食べる。  
1分もかからないかも。  
ちょっと撫でて、また明日ね^^と去る。  
...多分、長居をしなかったのは、  
勝手にパンをあげてはイケナイって思っていたからでしょうね。  
最初は飼い主に聞いた気がします。  
犬の前で食べ物を出す事の怖さ、危険さは知っていましたから。  
食べ物を出しても大丈夫な犬かどうか、  
必ず飼い主に聞いていたので。  
でも、その時「毎日あげてもいい」という了解をもらっていた訳ではなかったのでしょうか。  
私の中でその意識があったから、コソコソとあげていました^^ ;

...陽の当たらない玄関先でボンヤリ伏せていたので。。

もう、毎日あげることになってしまって、  
私も、自分の腹具合に関係なく、  
パンは一枚残すことに決めるようになって...

私が給食袋を探ると、  
もう待ちきれなくて、言ってもいないオスワリとオテとオカワリを、  
自らジタバタとするようになっていました。  
賢いな～健気だな～気の毒だな～という気持ちがあったような気がします。

ある時、いつものように通りかかると、  
...なんと！  
彼はオシッコの最中でした。  
繋がれたままの玄関先で、じゃーーーーーーーー...  
最初私は終わるのを待つつもりでした。  
ところがなかなか終わりません。  
彼の方も、困った目で私をちらちらみます。  
溜めに溜まったオシッコはもう止まらないのです。  
私は、彼に届く台の上にパンを置いて、  
「また明日ね」と立ち去りました。

散歩に連れて行ってもらっていないんだな...と  
犬を飼った事のない子供の私でも思いました。  
あんなに長いオシッコ、大量の...  
怒られないだろうか？それが心配で気の毒でした。

JUGEMテーマ：[ポメラニアン](#)

JUGEMテーマ：[愛犬のいる暮らし](#)

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

[哲学ブログ](#)

にほんブログ村

[心理学](#)

にほんブログ村

[犬ブログ](#)

にほんブログ村

[ポメラニアン](#)

にほんブログ村

## 思い出の犬 トラを食べちゃったシェパード

---

[拳魂一擲](#)

[☞拳魂一擲の他のレビューをみる☞](#)

評価：★★★★☆

鈴木 国博

ぶんか社

---

(2004-03)

思い出の犬...というか、猫のことなのかな。。

シェパードには会った事がなくて、聞いた話です。

なぜ、カラテの本が出ているのか？

このチャンピオンの飼っていたシェパードの話しを聞いた時、  
田舎のシェパードと状況が良く似ているような気がしたのです。

田舎には、婆ちゃんが可愛がっている猫がいました。トラ。

私が会った時、既に10才とかだったのだと思います。

それが...私の中で猫と認識できる大きさより遥かにでかい！

太っているとかではなくて、全体にデカイ。

一抱えもあるタヌキみたい。

庭に繋がれている犬には真っ先に挨拶に行った私が、

夕方、近所の巡回から戻って来たトラが座敷に上がると、

こそこそと家の中を逃げ回りました。

猫を怖いと思ったのはさすがに初めて、最初で最後ですね^^；

でも、怖がっていると思われたくなくて、

トラから迂回して家具の陰に隠れて、そこから様子を伺っていました。

目は放せないワケですよ。

見てない間にコッチに来ると怖いから^^；

そうしたら、婆ちゃんがやってきて、  
妹とトラを挟んで話し始めました。  
おや？妹が触っている。

それで、やっと勇気を出して近くに寄ってみました。  
実は怖かったんだ、と白状しました。

でも、一撫で、でしたね。

『綿の国星』のお母さんが、チビ猫を「ひとなで」、あの感じ。

「怖い」という「不信感」は一気に消えて、  
私が勝手に一方的に抱いていた妄想であったことが分かりました。  
トラは全く私に脅威を与える気はない。  
黙って背中をいくらでも撫でさせてくれました。

翌日には縁側でぼーっとながら、  
トラの背中を撫でつつ、手櫛で毛をいっぱい抜きました。  
当時、猫にブラッシングなんかしませんから^^；  
撫でると下毛がぞろぞろ抜ける。  
ずーっとながらやりました。

そうしたら、その晩、トラが私の布団に入って来ました。  
もう、従姉妹達とひしめき合って寝ていました。  
田舎だから、他にも部屋はあるのに、  
年長の姉ちゃんの部屋がいい！と皆が集合してしまう訳で^^；  
布団一枚分も十分には確保できない状態で、  
膝を立てるような感じで寝ていました。  
そこへトラがやってきたので、  
私は膝を曲げて「くの字」になってそのまま寝ました。  
私の膝の「く」の所でトラは寝ていました。

朝、トラが部屋を出て行く時、  
姉ちゃんが「え？トラがいる??」と驚きました。  
私が一緒に寝ていた、というと、  
トラは普段はこの部屋に入って来ないし、  
婆ちゃんとからいしか、一緒に寝ない、というのです。

えええ！？そうなの？

そうですね、まして、夏休みの暑い時期...

人と寝たがらない筈...

手櫛で梳いてやったことを話したら「トラの恩返しかな？」なんて言われました。

トラと一緒に寝たのはその一度きりでした。

毎日、トラと遊んでいました。

トラの武勇伝も一杯聞きました。

水槽で泳いでいる大きな金魚は、

実は、田んぼの用水路から穫って来たのを、

トラかが救出して現在に至る、とか。

足りないタンパク質は自分で補給している、とか。

...40年くらい昔のことですからね。。。

ちょっと『動物のお医者さん』のミケに似てます。

うん、スケバンなところも似てるかも。

そうなんだ、ミケも門柱の上から犬と勝負してましたね。。。

私がいる間にも、ネズミと雀を穫って来ました。

それを、なぜか見ている...ということは、

トラは一度、茶の間に持って来るのかな？くわえて。

それとも、たまたま仏間で見つけたのかな？

食べるのは決まって誰もいない仏間。

広い畳の真ん中で...暗闇の中でカシカシと食べている。

真ん中なのは、豆電球だけつけた照明のせいだろうか？

猫なら暗闇でも食事は出来るだろうか??

私、どうやって食べるのか見ていたりしました。

トラも見ている事で怒ったり、

行動が変わったりはしませんでした。

実に、上手に無駄無く解体しながら食べていました。

詳述するとスプラッタになりそうなのでやめますが^^；

でも、スプラッタな感じじゃなかったのです。

とても上手にキレイに食べるので、見事とういか、  
気持ち悪い感じは全くしませんでした。

毎回見ていた訳じゃないので、最初の頃は、  
食べ終わった頃、後片付けをしようと思って、  
行ってみるのですが...

何も落ちていない。

雀の時だけ、小さな羽が数枚落ちていただけで、  
畳も汚れていないし、何の痕跡もないのです。  
見事なものだな～と思いました。

鶏肉の骨をあげた事もあります。

私も危険とか、知らなかったし、  
誰も、鶏の骨をあげてはイケナイ、とは言わなかったですね。

鶏のもも肉を食べていたんです。

食べ終わって「トラに骨あげていい？」と聞いたら、  
「食べるならいいよ」みたいな。

待ち構えていたトラは、私から骨を受け取ると仏間へ。。。

正直いって、この時、私は、こんな太い骨は、しゃぶる程度だろうと思っていました。

軟骨とか、肉の欠片のついたところとちょっと齧って...

だから、トラが戻って来た時、骨を片付けに行きました。

...ところが.....欠片もありませんでした^^；

骨を砕く力があること、しゃぶるだけでなく、髓だけでなく、  
骨ごとたべちゃうこと...驚きました～。

庭には、柴？雑種？の和犬がいました。

男の子。先代のメスワンコの子供です。

前に来た時は、そのお母さんワンコだったけれど、  
代替わりしていました。

若い男の子で、とてもなつっこい。

縁側で目が合うと「あそぼ～～～」と待っている。

といっても繋がってますから、近くへ行って撫でるとか、  
おしゃべりするくらいなんです、  
ずっと、ヒトリで退屈で寂しいのでしょうか。

ある日、犬と遊んでいたら、

10メートルくらい向こうで、トラが「にゃー」と。

あきらかにコチラを見て呼ぶのです。

犬からしたら、トラは先住の先輩。

トラが私を呼ぶのを見て、しょぼんと「きゅーーん」と言います。

トラは「にゃー！」ちょっと強め^^；

ありゃりゃ、板挟みだな～と思いました。

トラは自分で自由に動けるし、家の中にいるといくらでも遊べるけど、

犬は、私が外に出ないと遊べない、その貴重な時間なワケで^^；

でも、トラにも悪いから、トラのところへ行って、

ちょっと撫でて、犬のところへ戻った...ような気がします。

そんな、楽しい夏休みでした。

それから10年近く経ったのだろうか...

田舎にも行ってなくて、

従姉妹が来た時だったか、いろんな話しのついでに、

トラは元気か？という話題になって。。。

トラはこの冬に亡くなったという。

あの若いオスワンコが亡くなり、

田舎ということもあって番犬は必須で、

そうしたところに、成犬のシェパードを引き受けてくれないか？

ということになり、シェパードを飼うことになったらしい。

しかし、これが、まったく懐かない。

散歩はおろか、餌やりにも苦勞する始末だと言う。

しかし、番犬にはこれ以上に心強いものはないが...という、

よくあるような、あってはならない悲しい状況。。。

そんな中での悲劇。

確かにトラも高齢ではあったはず。

でも、それまでは犬との距離を上手にとっていたはずだった。

「私たちも、本当のことは分からなくて、想像なんだけど...」と従姉妹、  
どうも、トラは犬の鎖の範囲内に入ってしまっただけらしい。  
トラはそんなヘマはこれまで一度もしたことがなかったはずなのに。。。

ある朝、シェパードの朝ご飯を持って行くと、  
雪の陰にトラの足だけがあったという。  
「トラはアイツに食われちゃったのかな〜」

トラも可哀想だけど...  
シェパードも可哀想だな。。。  
一体どこから、どういう事情でやって来たコだったのだろう。  
そんなに心を荒らしたまま、前半の犬生は分からないけれど、  
後半の犬生は送ったワケで...可哀想だな。。。

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

JUGEMテーマ：[ポメラニアン](#)

JUGEMテーマ：[愛犬のいる暮らし](#)

[哲学ブログ](#)

にほんブログ村

[心理学](#)

にほんブログ村

[犬ブログ](#)

にほんブログ村

[ポメラニアン](#)

にほんブログ村



## 十姉妹（ジュウシマツ）のこと

---



十姉妹のことをちょっと書いたら、書きたくなってしまった。  
でも、これも、大事な思い出なので小出し^^；

幼稚園だったと思います。

土手の上の道の真ん中で、文鳥を拾ったのです。母が。  
多分、記憶によると文鳥です。白い文鳥だったと思います。  
嘴がインコのようではなかったの。

迷い鳥ですよ。  
あの当時は飼主さんを探す手だてもなかったのでしょう。  
張り紙をして鳥を探す人なんていなかった。。。

鳥の道具一式を買って来て...  
でも、一週間いたかな。  
多分、道の真ん中にいたぐらいだから、弱っていたのかもしれない。  
我々が不慣れだったのかもしれない。  
かわいそうに、すぐに死んでしまいました。

お墓を作りました。

誰に習ったのか、自発的だったのか、  
...でも「死後の世界」という概念があったのだから、  
既に大人から、何らかの知識を注入されていたのかも。。。  
子供ながらに一番キレイな紙で包んで、  
お墓の中には、お花や餌もいれてあげました。

それより前の金魚の死よりは泣かなかったように思いますが、  
母が私がショックを受けていると思ったのか、  
それとも本当は自分が鳥好きだったのか...  
どこからか、十姉妹を二羽もらって来ました。

白っぽいタイプのコたちでした。

でもね、両方メスだったのです。  
そこで、今度はまたどこからか、オスと取り替えるということになり...  
今思えば、増えないんだから、これで良かったじゃないの。。。  
実際「このままだと増えないよ」というのが説得の中にありました。

でも、メスを一羽あげなければならないのです。  
取り替えっこだから^^；

これには私は泣きましたね。断固抗議しました。  
実際に黒っぽいオスを見せられても、  
「イラナイ！」と断固拒否！^^；

しかし、少々説得され、数日後、この方は再度オスを持ってやって来ました。  
私はこの時は納得したのか、観念（←カンネンするってこういう字なんだ！）して、  
オスと取り替えました。でも、やっぱり寂しかったのは覚えています。

これは、小学校への入学直前だったのだと思います。  
いや...チチが来たのは5月頃だったかな。。。  
陽気は良い頃です。  
とても、良い天気の日が最初の時でした。  
名付けた頃は...梅雨時だったような、気がします。。。  
なぜ、覚えているか？

間もなく入学した小学一年生の教科書からオスに名前をつけたからでした。

母は、鳥のことをまとめて「ピピちゃん」と呼んでいました。

だから、メスは「ピピちゃん」でした。

そうしたら、国語の教科書に「ピピとチチ」というお話が。。。

このタイトルだったかな？内容も覚えてないよう～♪なのですが^^；

<http://www.inter-edu.com/forum/read.php?1203,635710,page=2>

<http://www.inter-edu.com/forum/read.php?1203,635710,page=4>

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/view.rbz?>

[nd=1646&ik=1&pnp=100&pnp=106&pnp=134&pnp=1646&cd=119](http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/view.rbz?nd=1646&ik=1&pnp=100&pnp=106&pnp=134&pnp=1646&cd=119)

ネットってスゴイ！覚えている方がいた！

「ピピとチチの旅行」。。。

そう、確かに当時、とても長いお話だと思いました。

いえいえ、子供用だから「ピピとチチのりょこう」なんだ...

と思ったら、正式には「チチとピピのりょこう」なのかあ～

『ちちとぴぴのりょこう 神沢利子』

[http://magnoria.at.webry.info/201104/article\\_5094.html](http://magnoria.at.webry.info/201104/article_5094.html)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/神沢利子>

...ついでに、4年生頃でしょうか、マンゴーと猿の出て来るお話も好きだったな。

二色刷りで、マンゴーが朱色...きれいなオレンジで、

当時はマンゴーなんて見た事も無かったから、

「食べてみたいな～」ってとってもとっても思いました^^

それで、オスの名は「チチ」になりました。

文字通り「父」になることを期待されていたので、

母と笑った覚えがあります。

増えました。

一時は小鳥屋さんで売っている一番大きなカゴを二つ...

私の観察ですが、

アルファオスがいたと思います。

よく鳴き、よく巣作りし、よく子育てをする。

他のオスも鳴きますが、

アルファ程ではない。

春先だったか、なんとなくの感覚なのですが、

巣作りの季節だなあ～という頃に、  
巣材を入れてやると（売っているし、雑草の枯れたのでも良い）  
一つしか無い巣で巣作りをするのですから、  
他のオスが設えた巣では気に入らなくて、  
やり直したり、面白いです。

チビというオスがいました。  
雛の時に巣から落としてしまって、  
死んでしまうかと思った。  
無事に育ったのだけど、とても身体が小さくて、  
足が悪くなっていました。

しかし、このチビが、兄弟の中でアルファとなったようです。  
歴代のオスの中でもダントツでメスも雛のことも面倒見がいい。  
私にももっとも慣れたコで、  
カゴの中に青菜を持った手を入れても、  
手から直接青菜を食べてくれました。  
最初は手から食べさせようと思ったのではなく、  
（そんなの、鳥を驚かせるだけだから）  
青菜を入れようと思ったら、チビが寄って来たのだと思います。

ところが、ある日、  
外出中に鳥かごをご近所の子供達がひっくり返してしまったのだそうです。

私が、帰宅すると、  
土が入った水入れなどがひっくり返ったカゴの上に...  
上に...！？  
そう上に！ チビが乗っていました。。。

えええええ～、慌てて、でも、チビを驚かさないように、  
チビなら私の手でも逃げない筈...と言い聞かせて...  
チビをそおっと包んでカゴに戻しました。  
よくぞ、チビは耐えてくれました。

今ならしませんが、  
当時は呑気に外出中に鳥に日光浴をさせていたんですね。

無知は呑気です。無防備です。

カゴから出てしまった十姉妹を、  
お母さん達は必死で集めてくれたようです。

でもね、一杯いるし、そもそも何羽いたかもわからないし、  
十姉妹は保護色だし...

チビだけが救出されなかったのです。

でも、それでも、よくぞ、他のコだけでも救出してくれたものだ、と有り難かったです。

そして、カゴは玄関脇の台の上へ起き直され、  
お母さんも子供たちも帰宅し、その後私が帰宅した。  
その間にチビは自力でカゴのところにやってきたのですね。  
よくぞ、自分でやってきたものだ、と思いました。  
そして、私に捕まえられるのを待っていた、と思いました。

他の十姉妹でもカゴの上に乗っていただけろうか？  
チビだからではなかったろうか。。。

カゴの中でしか生きられない鳥...

インコは野生に帰れるけれど...

<http://ameblo.jp/kappa-ebipyon/entry-10852710482.html>

ぴょん母さん撮影のインコ^^

チビは超超超^^特別でした。

はああ～書いていたら、思い出してドキドキしてきました^^；  
ホント、よくぞ逃げずに手の中に治まってくれました。

JUGEMテーマ：[ポメラニアン](#)

JUGEMテーマ：[愛犬のいる暮らし](#)

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

ポメラニアン

[にほんブログ村](#)

## ひぐち猫が面白いです！ ...と、思い出の犬番外編 猫

---

犬派も猫派も納得出来ちゃうと思うんですよね、この漫画^^

『ひぐち猫』

<http://higuchineko.cocolog-nifty.com/blog/>

第一話は何度読んでも面白い^^

<http://betsufure.net/forKCP/higuchineko/otameshi/>

最初はココかな？

<http://higuchineko.cocolog-nifty.com/blog/2009/10/post-02e9.html>

<http://higuchineko.cocolog-nifty.com/blog/2009/12/14-76d0.html>

↑このお話がお気に入り^^

猫ってトイレ教えなくてもいいんですよね～。

私が昔一緒に暮らしたコもそうでした。

しかも、私の手作りトイレ...

菓子折りの缶に果物の入っていたザルというかカゴというか...

最初は猫砂（紙製）を入れていましたが、

節約して入れなくなっても使ってくれました。

基本的に私が帰宅するのを待って、

一緒にトイレに行ったりしましたっけ。。。

お腹を壊してしまった時、

帰宅したら、トイレの外に.....orz

でもね、近くにあったスリッパや足拭きマットでキッチリ覆ってありました。。。

ああ、お腹痛かったのかな～って思いながら、

黙って片付けていたら、

ずっと近くにチンマリ座って、申し分けなさそうにしてましたっけ。。。

爪研ぎを初めて買ってきた時は、  
使い方が分からないようだったので、  
私が爪を立ててやってみせたら、すぐに意味を理解して病み付きになりました ^^

ある日、ウチのコの出入り用の台所の窓から野良猫(?)が入ってきたことがありました。  
30年くらい前だから、猫は外飼いでした。。。

部屋で猫とまったりしていたら、台所と部屋の間引き戸がすーっと開いて...  
見知らぬ猫が我々を見て、ボーゼンとしています ^^ ;  
戸の近くにいたので、かなりの至近距離でした。

固まるサンニン。。。。

かなり時間が経って、ハッとしたその猫はサササッと帰って行きました ^^ ;

しかし、私は悔しかったですねえ～

ウチのコは戸を開けることが出来ませんでしたから。

野良に出来て、アンタに出来ないはずなはい！  
と、猫の手を取って、引き戸に掛け、  
一緒に戸を開けて、開くと褒める！というのをやりました。  
それを数回繰り返したら、引き戸が開けられるようになりました ^^

なかなか、賢いコだったのだと思います。

JUGEMテーマ：[ポメラニアン](#)

JUGEMテーマ：[愛犬のいる暮らし](#)

JUGEMテーマ：[わんこ](#)

JUGEMテーマ：[にゃんこ](#)



にほんブログ村